

折に触れ 四字熟語

NO. 40 『春宵一刻』 しゅんしょう いっこく

< 意味 > 春の夜のひとときはなんともいわれぬ趣があり、大きな価値をもっているということ。

< 出典 > 蘇軾「春夜」

春宵一刻直千金	春宵	一刻	直ひ千金
花有清香月有陰	花に清香	有り	月に陰有り
歌管樓臺聲寂寂	歌管	樓臺	聲寂寂
鞦韆院落夜沈沈	鞦韆	院落	夜沈沈

通 釈： 春のよいは暑からず寒からず、まことに快適で、一刻に千金の値打ちがある。
花は清らかな香を放ち、月はおぼろにかすんで
歌や笛の音のにぎやかであった高殿も、今はひっそりと静まりかえり
ぶらんこのさがっている中庭には、人影さえなく、夜は静かにふけてゆく

語 釈： 「春宵」は春の夜。「一刻」はわずかな時間。「院落」かきねで囲んだ屋敷。

一 言： 春シリーズその4

参照文献： 角川書店「中国名詩鑑賞辞典」 三省堂「四字熟語辞典」